

天王山・淀川 歴史と文化 うるおいのあるまち

広報

おやまざき

1

2009(平成21)年



今年、「丑年」。
去年より、モーツと良い年になり
ますように♪

長寿苑キリ絵サークルの皆さん

今月の主な内容

- 新年のごあいさつ P.2
- 乙訓ふるさとふれあい駅伝
第二大山崎小学校が栄冠！ P.6

vol.490

<http://www.town.oyamazaki.kyoto.jp>

住んで良かったと

実感できる町づくりを

明けましておめでとうござい
ます。

深刻な不況や雇用不安の嵐が吹
き荒れる中で迎える新年。今まで
になく、地域や暮らしの行方を気
にかけながらのお正月となりました。

古くから続いてきた「三川合流
と天王山の町」大山崎町もまた、
今や各地の小規模自治体と共通す
る、さまざまな問題に直面してい
ます。

暮らしの安全・安心を将来にわ
たつてしっかりと支えて行くため
にも、町は住民の皆さんと力を合
わせ、着実な努力を重ねていくこ
とが求められています。

一方、近年ますます、全国から
多くの人々が豊かな歴史や文化、
自然に惹かれてこの町を訪れるよ
うになっています。

こうした「ふるさと大山崎町」
の盛り上がりをも、これから生まれ

住民の視点に立った

住民主体の議会を

新年明けましておめでとうござ
います。

新春を迎えるにあたり、皆様の
ご多幸とご健勝を心からお祈り申
上げます。

皆様方には、日頃より町議会に
対するご理解とご協力を賜り厚く
お礼を申し上げます。

私は、昨年10月の臨時議会にお
きまして、議長の要職に就任させ
ていただきました。もとより微力
ではございますが、新たな決意と
抱負のもとに、円滑なる議会の運
営と町政発展のため全力を尽くす
所存でございます。

さて、今日、国の内外ともに大
きな変革の時期に遭遇しておりま
す。地方行政におきましても、地
方分権型社会の到来を受けまし
て、自己決定・自己責任による自
治体運営が求められるなど、未だ
かつて経験したことのない新たな
環境に日々直面し、まさに、議会

新年のごあいさつ

大山崎町長

真鍋 宗平



てくる次世代にまで引き継ぐには、目の前の困難を乗り越えて、新たな発展の土台をつくり出し、築いていかなければなりません。そのためにも、役場で働く私たち職員一同、「住んで良かった」と実感できる町づくりへ、「協働」のテーマを掲げ、決意を新たにしているところです。

この穏やかな町に住む全ての住民の皆さんにとって、細やかな交流や会話が満ち溢れる一年になりますよう。平和と安全を願いながら、年頭のごあいさつを申し上げます。

大山崎町議会議長

江下 伝明



と行政の真価が問われている時代といっても過言ではありません。

大山崎町議会は、住民の視点に立ち、情報の公開をもとに、住民ニーズを吸い上げていく議会報告会などを取り入れながら、わかりやすい議会を目指して2年間、各会派の議員と共に議会改革を進めてまいりますので、皆様方のご理解とご支援をお願い致します。

結びにあたり、新しい年が皆様にとりまして、より実り多き年であり飛躍の年となりますことを心から祈念いたしまして、新年のごあいさついたします。

12/9 つきたてのお餅の美味しいこと!

長寿苑餅つき大会

この日、長寿苑玄関前で餅つき大会を開催。集まった約50人が、つきたてのお餅に舌鼓を打ちました。

ペタン、ペタン、ペタン!一定のリズムで、心地よい音が響き渡ります。主に臼とり役を務めた上田さんは、この道のベテラン。コツを尋ねると「杵つき役とのコンビネーション。タイミングが大切です。」

そしてできあがった14kgもお餅は、大根おろし、きなこ、あんこの3種類の味で振舞われました。温かいお餅を口いっぱい頬張った参加者たちは、「すごくおいしい!」と大満足の様子。皆さんの笑顔が印象的な、年の瀬の一日でした。



12/1~ キラキラのイルミで心ポカポカ

大山崎オーキッド・イルミネーション2008

駅前に施されたかわいいサンタクロースや雪だるまが、キラキラ光るイルミネーションとともに行き交う人々の目を楽しませています。

このイルミネーションを担当したのは、大山崎町商工会が主催する大山崎オーキッド・イルミネーション2008の一環「駅前イルミネーション・コンテスト」で選ばれた「ぼらぐみなかよしぐみ」。町立第2保育所の5歳児とその保護者の皆さんからなるグループで、手作り感溢れるかわいいデザインが入選の決め手となりました。

イルミネーションは、1月7日まで毎日、夕方から翌午前1時まで点灯されます。



迎春

11/18 「とっても甘いよ～」

保育所焼きいも大会

町立各保育所で、焼きいも大会を行いました。

園庭にしつらえた焚き火で、じっくり焼き上げられたおいも。午後3時、お昼寝から起きた子どもたちの手に配られました。アルミホイルをむくと、中からアツアツ、ホクホクの美味しそうな焼きいもが登場。

「おいもを食べると、オナラが出るんだよ」

「とっても甘いよ～」

パクリと平らげ、みんな満足そうな表情を浮かべていました。



12/2 みんなで省エネ頑張りました!

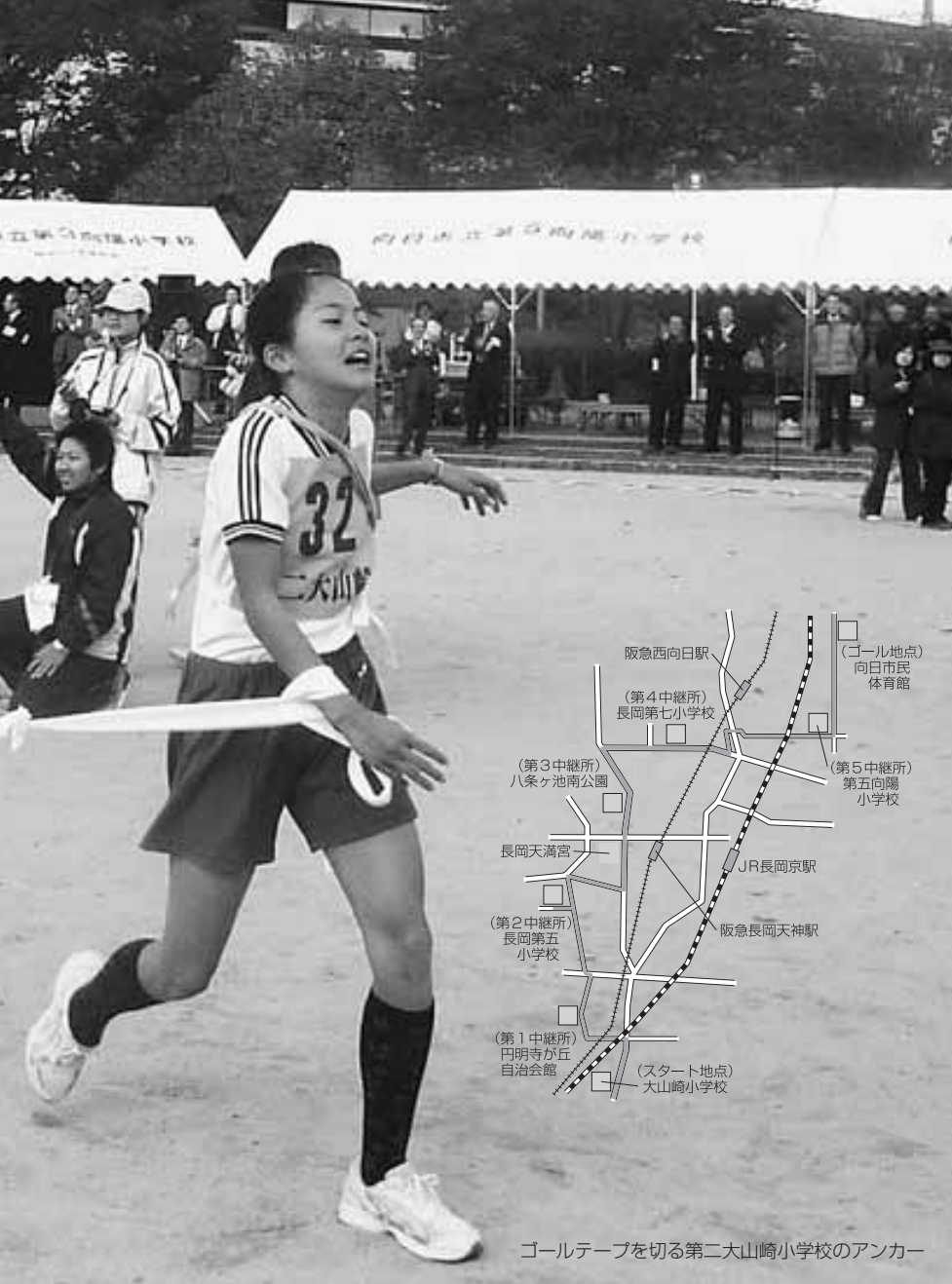
大山崎小学校に自転車発電機贈呈

京都府が2003年から実施している地球温暖化対策推進事業「夏休み省エネチャレンジ」。夏休み期間中の1週間、テレビの時間を短くしたり、エアコンの設定温度を上げたり、家庭でできるさまざまな省エネに親子で取り組むというこの事業に、今年度、大山崎小学校からは3年生～6年生の333人全員が参加。参加率100%、期間中に削減した二酸化炭素の量は667kg（30リットルのゴミ袋1万個以上!）と、学校を挙げての優秀な取り組みが高く評価され、この日、京都府から自転車発電機が贈呈されました。

贈呈式では、各学年の代表が自転車をこいで実際に発電を体験。発電機に繋いだラジカセから音楽が流れ出すと、子どもたちからは大きな歓声と手拍子が沸き起こりました。

発電を体験した子どもたちは、「しんどかった」「すごく疲れた」と、発電の大変さをひしひしと体感したようすで、省エネの大切さを再認識していました。



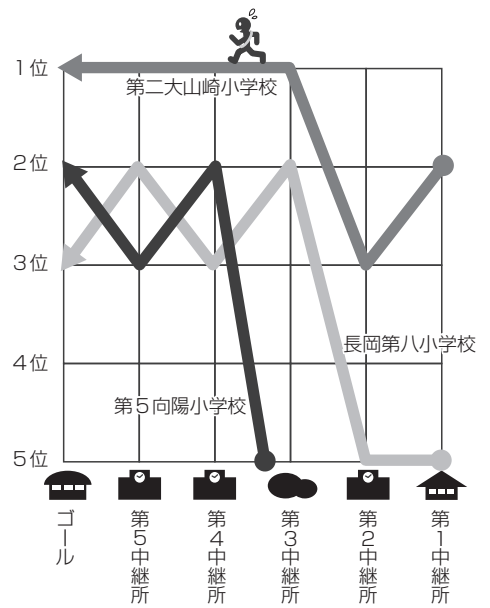


ゴールテープを切る第二大山崎小学校のアンカー

第二大山崎小学校が、大会新記録となる34分21秒(9.19km)で、見事初優勝！
 大山崎小学校も、4年連続の入賞となる6位入賞を果たしました。

優勝までの軌跡

(上位3チームの区間毎の順位の変遷)



—第19回乙訓地方小学生駅伝大会—

乙訓ふるさとふれあい駅伝

第二大山崎小学校が栄冠！



(右) 前走者から次走者へ、「優勝する！」という熱い思いとともにタスキがリレーされていきました (中) レース後、応援に駆けつけた友達や先生、コーチらと一緒に記念撮影 (左) 友達からもらったミサンガを、選手全員が身に付けてレースに挑みました

(後列左から)
 徳本 健太朗くん (1区走者・区間2位)
 山本 泰士くん (3区走者・区間3位)
 秋田 嵐くん (5区走者)
 林 純くん (個人走・6位入賞)
 (前列左から)
 高木 なおさん (4区走者)
 波多野 麻由さん (2区走者)
 三浦 友莉香さん (個人走・3位入賞)
 山本 実侑さん (6区走者・区間2位)
 ※各区間の入賞者のみ順位を記載
 ※後列の左端右端は先生



第二大山崎小、初優勝！

優勝。しかも大会新記録。栄冠を勝ち取るまでの道のりは決して楽なものではなかったはず。自分たちを信じて練習に打ち込んできた選手の皆さんに、素直な気持ちを語っていただきました。

優勝できた一番のポイントは何だったと思う？

林 純くん「1年間ずつと練習を見てくれました。友達も手紙やミサンガをくれました。本当に、周りの人の支えで優勝できたと思います。」

駅伝を通じてどんなことを学んだ？

波多野さん「最後まで諦めないことの大切さと、人への感謝です。」

次回の大会に向けて、今の5年生にひとこと。

「走った距離は裏切らない」この言葉を信じて、頑張つて欲しいです。努力した分だけ結果はついてきます。」

(ここからの質問は、選手一人ひとりに答えてもらいました)

優勝した瞬間の気持ちは？

徳本くん「すぐには信じられなかったです。」

波多野さん「めちゃめちゃ嬉しかったです！」

山本くん「信じられへん！ありえへん！」

高木さん「やっと終わった〜。」

秋田くん「素直に、やったーって思いました。」

山本さん「やばいくらい嬉しかったです！」

「っ！って思いました。」

三浦さん「私は個人走だったので、みんな本当にすごいなって思いました。」

どんなことを思いながら走ってた？

徳本くん「最初はゆっくり行こうと思っていたのに、みんな全力でスタートしたからヤバイと思いました。でも、最後にラストパートをして2位になれて良かったです。」

波多野さん「何も考えずに走ってました。最後1人に抜かされて、あ〜って思いました。」

山本くん「抜かれないかな？ みんなに迷惑かけないかな？ って考えながら走ってました。」

高木さん「1位で来たなら緊張するね〜という話をしていたら本当に1位で来て、すご〜ドキドキしました。去年の担任の先生が沿道で応援してくれていて、すご〜く力が出ました。」

秋田くん「緊張で途中からお腹が痛くなって、焦りながら走ってました。でも、なんとか練習どおりに走れたかな。」

山本さん「アンカーだし、プレッシャーがすごかった。ゴールの直前までヒヤヒヤしてました。」

林くん「喉が渴いて、早くゴールしたいって考えてました。」

三浦さん「走りながら、コース長いなあ〜って思っていました。」

大山崎小、4年連続の入賞！

今回は、第二大山崎小学校に主役の座を奪われたものの、大山崎小学校も見事に4年連続入賞を達成。毎年安定して強さを発揮する大山崎小学校の選手の皆さんに、お話を聞きました。



(後列左から)
神谷 加奈子さん (2区走者・区間1位)
今西 りささん (個人走)
阪本 智芽さん (6区走者)
杉本 未来さん (4区走者・区間2位)
(前列左から)
新田 琢馬くん (個人走)
大石 拓己くん (1区走者)
東郷 龍斗くん (5区走者)
張本 竣也くん (3区走者)
※各区間の入賞者のみ順位を記載

学んだ？
駅伝を通じてどんなことを

練習はしんどかった？
練習では酸欠になることもありました。それでも、本番はすごく緊張して、練習よりもしんどかったです。

次回の大会に向けて、今の5年生にひとこと。
チームワークを高めて、今年よりもタイムを縮めてほしいです。そして、4年連続入賞の記録を伸ばすだけでなく、来年も優勝してほしいです。

どんな練習をしてきた？
大会の1カ月前くらい前から、週2日、朝の7時15分から8時まで学校のグラウンドで朝練をしていました。

走るのが速くなったのはもちろん、チームワークの大切さを学びました。それと、ほかの学校の人と友達になることもできました。

「実は、今回選手に選ばれた林(純)くんは私の甥にあたるのですが、母親を通じて『駅伝に出たいから鍛えて欲しい』と言ってきたんです。私自身、毎日夕方走っているので、ほかに

「9月の段階で、6位入賞は狙えるかな、という手応えを感じていました。そこで、子どもたちに、改めて駅伝メンバーに入りたいと思っているか尋ねて

「10月の選考会を終えて出場メンバーが確定してからは、本番のコースの試走もしました。11月の段階では、3位には入れるだろうという手応えに変わっ

優勝を陰で支えた力

優勝の陰には、周りの多くのサポートがありました。熱心に応援してくれた友達、放課後、練習に付き合ってくれた先生。中でも、1年も前から学校での練習とは別に、毎週4日間練習を指導してくれた林コーチの存在なくしては、この優勝はありえなかったと選手たちは話します。

も希望する子がいたらまとめて面倒を見るよ、と返事をしました。子どもと一緒に走った方が自分自身もサボれないし、若いエネルギーも分けてもらえますしね。」

みたんです。そうすると、なりたい！という返事が返ってききました。これを機に、陸上をやっている娘にも相談して、本格的な練習メニューを組み立てました。」

これが、約1年前。林さんがコーチを始めるきっかけでした。ここから、週4日の練習がスタートします。最初は林くん、徳本くん、秋田くんだけだったのが、4月からは、山本(泰士)くん、山本(実侖)さん、三浦さんが、9月からは高木さん、波多野さんも加わりました。

練習場所は、林さんが奥さんと2人でメジャーを使って計ったという一周約680mのコース。このコースを、体力強化のため10周走ったり、スピードを磨くため1周を全力で走ったり。厳しい練習を重ねて、子どもたちの実力はみるみる上がっていきました。



林 亨 ハヤシ・トオル

大山崎町教育委員会生涯学習室主幹。小学6年生時の校内マラソン大会で2位になったのをきっかけに走る楽しさに気づき、中学、高校と陸上部に所属。以降、現在に至るまでの40年間、ライフワークの一部として走ることを欠かさない。長岡京市下海印寺在住、52歳。

ていました。
そして迎えた試合当日。林さんは、自転車にまたがって、選手をコース沿いから応援し続けました。

「優勝したときは、1年間の思いが込み上げてきて思わず泣きました。野口みずき選手の『走った距離は裏切らない』という言葉、子どもたちには言い続けた。本当にありがとう！」

消防場 消 広 場

毎月1日は
無火災推進日

大山崎消防署

☎ 956-0119

謹んで新春のお慶びを
申し上げます

無火災を願って職員・団員一同
火災予防に努めたいと存じますので、
よろしくお願い申し上げます。



大山崎消防署・大山崎町消防団



文化財防火運動

毎年1月26日は「文化財防火デー」です。昭和24年1月26日に、世界的な文化遺産の木造建造物である法隆寺（奈良県斑鳩町）の金堂が炎上し、壁画が焼損したことがきっかけとなり、昭和30年に制定されました。近年では、平成10年5月に東大寺（奈良県奈良市）の戒壇院千手堂が全焼し、重要文化財の「愛染明玉座像」や重要美術品の「千手観音・四天王立像」などが



妙喜庵の茶室「待庵」の原寸大模型(歴史資料館)

被災しました。また、平成12年5月には、寂光院（京都府京都市）の本堂が火災により全焼し、重要文化財「木造地藏菩薩立像」が被害を受けました。大山崎消防署および大山崎町消防団では、町内の貴重な文化財を火災から守るため、文化財防火運動を展開し、火災予防を呼びかけています。

大山崎町消防出初式

年も新たに、平成21年大山崎町消防出初式を行います。

とぎ1月11日(日)午前9時～11時

とぎ1町体育館・駐車場

内容1式典(小体育館)、観閲、一斉放水(駐車場)

※雨天の場合は式典のみ実施
問1大山崎消防署庶務予防課



平成20年消防出初式の様子



シリーズ

心のバリアフリー

▶▶▶最終回

あらゆる人が対等な関係を
築ける町を目指して



まずは、
自分のできる「こと」が
始めよう

誰でも、普段の生活の中でやりにくいな、不便だなと感じることはあると思います。それらの一つひとつが、バリアです。身近に存在する多くのバリアの中には、シリーズ第1回でもお知らせしたとおり、設備面の整備だけでは解消できないバリアがたくさんあります。そこで求められるのが心のバリアフリーです。

でも、実際には心にバリアのある人がたくさんいます。心のバリアを解消するには、世の中にはどんな人がいて、どんなことにバリアを感じているのかを知らなくてはなりません。あらゆる立場の人を理解することが、心のバリアを解消する第一歩です。

理解することができたら、次は行動することです。人が何かに困っているなと感じたら、「どうされましたか」と声をかければいいのです。できないからやっちゃってあげようという同情的気持ちはなく、家族や友達に困っているときに声を掛けるのと同じ気持ちで相手に接することが大切です。でも、中には、断られたらどうしようと考え、なかなか声をかけられない、という人もいます。でも、断られたからといって

って嫌な思いをする必要はありません。誰も自分のできることは自分ですということだけのことであって、相手はその心遣いに対して嫌な気持ちはしていないはずですから。そういうときは、優しく見守るようにしましょう。さらには、声を掛けるだけでなく、積極的にいるんな人と交流を持つようにできれば、なお素晴らしいですね。

また、普段から交通マナーを守る、家の周りをきれいにするなど、自分以外の人がどう思うかを考えながら行動するということも、立派な心のバリアフリーです。

このように、心のバリアフリーを求めていくと、きっと誰もが自分にもできることがあると気付くはず。これを読まれた皆さんも、身の回りに、そして自分の心の中にどんなバリアがあるのか改めて考え、まずは自分のできる「こと」から始めてみてください。そして近い将来、大山崎町が障害のある人もない人も、老若男女、国籍も関係なく、あらゆる人が対等な関係を築ける「心のバリアフリーの町」になれば、とても素敵ですね。